

4 JAC RECYCLE JOURNAL

2020.04. Apr

株式会社ジェーエーシー

① ジェーエーシーがこの度、 日本経済新聞社様に取り上げられました！

仙台のジェーエーシー、「リサイクル7次産業化」実験 技あり企業



その商業施設内には仕切りの壁がない。カフェやパン屋、レストラン、花屋、食品売り場、ラジオのスタジオなどがひと続きになっている。ガラス張りのおしゃれな店内では朝から晩まで老若男女がくつろぎ、談笑している。

リサイクル工場などを手掛けるジェーエーシー（仙台市）グループが2019年4月に開業した商業施設「真野屋」（同）は、「リサイクルの7次産業化」の実験場だ。

1次で産業廃棄物を燃料や資源として再利用し、2次で再生エネルギーを使って農産物を生産、3次でそれを販売する。こうした6次産業化にとどまらず、地域や企業を巻き込み、持続可能な社会をともに実現するのが同社が考えるリサイクルの7次産業化だ。この発想は商品から店舗の内装まで隅々に浸透している。「不要なものを宝に変える『アップサイクル』の考え方に基づき、内装は全てリサイクル品」（真野屋の加納啓作店長）という。ペットボトルの廃材で作った壁のタイルや、学校で使っていた椅子や机、捨てられた照明など、床や天井、展示棚に至るまで再利用品が埋め尽くす。捨てられたレコードをかけるため、仙台のコミュニティFM放送局「ラジオ3」の公開収録スタジオを設置。店内には洋楽が流れる。東日本大震災の津波で流されてきたコンテナはカフェのキッチンに変身した。食品はできるだけ東北のものを集め、オーガニック商品にこだわったため価格は高め。例えば、6個入りの卵は250円以上だ。当初は生活に余裕がある30～60歳代の女性をターゲットにしていたが、「思ったより若い人も来ており、体に良いものに対する意識が高まっているのかもしれない」（同社）という。

真野屋を設けたジェーエーシー前社長の眞野孝仁氏は宮城県石巻市の出身。震災後は重機でがれきの処理などにも携わった。変わり果てた地元の姿を前に「東北を元気にしたい。この地で古くから築いてきたものを掘り起こし、その価値を学び、未来を切り開いていく」と誓った。「競合は考えたことがない。理想を形にした結果がここにある」（仙台支局 渡辺絵理）

www.nikkei.comより引用

🗨️ 発想に脱帽！ アップサイクルされたおしゃれな家具 スケボーから椅子にアップサイクル！

廃棄寸前だった椅子の骨格に、古いスケートボードの板を三枚張っただけのアップサイクルチェア。元々は全く違う用途だったアイテムを、素材の性質を活かしつつ新たな家具に再生したアップサイクルの模範解答のような事例です。

出典：西海岸インテリア/ハンドメイド…などのインテリア実例 RoomClip（ルームクリップ）より引用

アップサイクルとリサイクルの違い・・・

「リサイクル」のポイントは、一度“原料”に戻すこと。ペットボトルを例に出すと、ペットボトルのリサイクルの方法は2通り。回収したペットボトルを細かく砕いて、新たなものの原料として使う「マテリアルリサイクル」と、化学的・物理的な再生法によってPET原料に戻して、再びペットボトルにする「ボトルtoボトル」があります



芸能人や有名スポーツ選手が自宅で出来る遊びやトレーニング方法を動画などで発信してますね。やはりわたしが子供のころに遊んだゲームは二人以上が指が何本上がるか予想するゲーム、『いっせーの』です！正式名称かどうかは分かりませんが大概あれで色んなものを決めたり、遊んだりしてましたね。昭和バンザイ！



編集部だよ

「いっせーの！」最新バージョン！？